



連絡先

外来TEL:0853-20-2381
 病棟TEL:0853-20-2493
 医局TEL:0853-20-2190 医局FAX:0853-20-2187

専門分野:生活習慣関連肝疾患
 慢性ウイルス肝炎、肝細胞がん
 資格:日本肝臓学会専門医
 日本消化器病学会専門医
 日本内科学会総合内科専門医

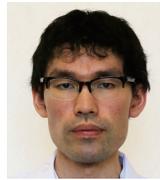
HPアドレス:<https://www.shimane-u-internal2.jp/>

スタッフ



矢崎 友隆 医科医員

専門分野:慢性ウイルス肝炎
 肝細胞がん
 資格:
 日本内科学会総合内科専門医
 日本消化器病学会専門医



片岡 祐俊 医科医員

専門分野:消化管、胆、膵
 資格:認定内科医

説明

慢性ウイルス性肝炎、非アルコール性脂肪肝炎、肝硬変などの慢性疾患、肝細胞がんや転移性肝腫瘍など肝腫瘍性疾患を中心に、最新のガイドラインに基づいて、緻密な治療計画の上で最先端医療を提供しています。

診療内容

慢性肝疾患の侵襲的・非侵襲的進展度診断、C型慢性肝炎、B型慢性肝炎の抗ウイルス療法、肝細胞がんの経皮的局所療法、カテーテル治療、分子標的薬治療、生活習慣病関連肝疾患の専門的治療、肝硬変に合併した静脈瘤治療、肝・胆道系の急性炎症性疾患の治療

特色

消化器内科・光学医療診療部と連携しながら、広い視野で肝疾患診療に当たるようにしています。高齢県という特徴を考慮して、高齢者に負担の少ない治療を心がけています。また、肝疾患診療連携拠点病院として、肝炎の啓発活動(市民公開講座、肝臓病教室、医師向け講習会、出張肝炎無料検査)に力を入れています。

診療体制

消化器内科と連携をとり、診療にあたっています。慢性肝疾患では肝臓の硬度(線維化進展度)評価が重要ですが、最新の超音波機器を3台導入し、肝の硬度測定(弾性度診断)を非侵襲的に行っています。C型肝炎に関しては2014年9月よりインターフェロン(IFN)を使用しない抗ウイルス治療としてC型肝炎ウイルス直接作用薬(Direct-acting antivirals, DAA)が登場し、当初24週間の治療でありましたが、最新の治療は慢性肝炎で遺伝子型1か2型、かつDAA初回治療であれば8週間で治療が終了します。また、非代償性肝硬変に対する治療も可能となりました。高齢者から基礎疾患を有するC型慢性肝炎およびC型代償期肝硬変症例に幅広く治療を行い治療効果(ウイルス完全排除率)も95%を超えています。B型慢性肝炎では経口核酸アナログ製剤の導入だけでなく、症例を選んで核酸アナログからIFNへの連続療法を行い、ドラッグフリーの状態に持ち込めるように工夫しています。

肝細胞がん治療では県内で最も早くラジオ波治療を導入して、豊富な症例数を有し、複数の指導体制で施行しています。切除不能な進行肝がんに対する、分子標的治療薬はこれまでソラフェニブしかありませんでしたが、2017年6月よりソラフェニブに不応となった症例に対して、新たにレゴラフェニブが保険適用となり、さらに2018年8月よりレンパチニブ、2019年6月よりラムシルマブも登場したことから、肝がん治療患者さんに積極的に使用しています。

肝疾患で今後最も多くなる生活習慣関連肝疾患は専門外来を設けて、患者さんの状態にあった個別化診療を行っています。糖尿病を合併した非アルコール性脂肪肝炎患者さんに対して、SGLT2阻害薬を用いた治療では、肝機能改善の成果をあげています。また非アルコール性脂肪肝炎に対する新薬の開発(治験)にも積極的に参加しています。

肝腫瘍に対するラジオ波等治療件数	35人（2019年1月～2019年12月）
肝生検（実質生検+狙撃生検）	86人（2019年1月～2019年12月）
肝膿瘍等穿刺	9人（2019年1月～2019年12月）
PTCD（経皮経肝胆管ドレナージ）	4人（2019年1月～2019年12月）
肝癌に対するレンバチニブ治療	34人（2018年8月～2019年9月）

当院で肝細胞がんに対するレンバチニブ治療を施行した34症例の治療成績

全生存期間中央値：12.7か月（10.2- 15.3）(95%CI)

